

2020年度地域資源創成学部卒業生アンケート調査の考察

松岡崇暢（地域資源創成学部）
根岸裕孝（地域資源創成学部）
金岡保之（地域資源創成学部）
桑畑夏生（地域資源創成学部）
井藤 哉（地域資源創成学部）
瀬川直樹（地域資源創成学部）
中野 敦（地域資源創成学部）
入谷貴夫（地域資源創成学部）
杉山智行（地域資源創成学部）
出口近士（地域資源創成学部）

1. はじめに

宮崎大学地域資源創成学部は、2016年4月に設置された新学部としてスタートした。2020年3月の卒業式で1期生を社会に輩出し、2021年3月には2期生を社会に輩出した。本学部の特色として、文理融合、実務家教員の多数所属、実践活動や地域実習や長期インターンシップなどに注力するカリキュラムを導入したことである。大学4年間において、本学部在籍学生は多様な学びや体験を通じ、学士の学位を授与するに相応しい知力と能力を養っている。今後、教育や研究の質向上に反映させるため、本学部の教育内容、学生の満足度、達成感を指標とした成長要因を明らかにすることが不可欠である。そのため、卒業生である2期生を対象とした宮崎大学地域資源創成学部卒業生アンケート調査を実施した。小山らは、1期生を対象としたアンケート調査を実施しており、今後比較等により詳細な分析は可能であり、今回のアンケート調査は意義があると考え（小山ほか2020）。

2021年3月に実施したアンケート調査結果を踏まえ、令和3年度の教務部会にて集計と分析の結果を共有し、令和3年度の教授会で分析結果の報告を行った。本稿は、得られた分析結

果に考察を加え、今後の本学部の教育活動や研究活動に活用できる基礎的資料と位置付ける。なお、4年間の学生生活がどのような成果を得られ、改善すべき課題が何であるのか明らかにすることで、本学部運営や将来のカリキュラム改善に繋げていく。

2. 地域資源創成学部の教育概要

本学部は、多様化・複雑化する地域の課題を解決し、地域の持続的発展に資するために開設された。地域や産業づくりを担う人材育成を強く期待されており、マネジメントの専門知識や社会・人文科学や農学・工学分野の利活用技術の基礎的知識を体得できるように、異分野融合の教育カリキュラムを導入している。輩出する人材は、製造業、食品・醸造業、マスコミ、観光、サービス業、公務員等を想定している。卒業後は、地域の産学官における人的ネットワークを構築し、地域の持続的発展に寄与するリーダー育成という長期的な目標を掲げている。これらの目標は、宮崎県内で浸透しており本学部教育に対する期待が高まっている。

期待される輩出人材像を踏まえ、本学部における入学者選抜の基本方針であるアドミッションポリシーを見ていく。求める学生像は、地

域振興への熱意や学問の関心を持ち、社会科学と自然科学の両方の知識や技能を有し、コミュニケーション能力・表現力・思考力・判断力を持つ。学習を通じて獲得した知識、スキル、行動力などを地域社会に還元できる、強い意志を持つ人材となっている。なお、この求める学生像には社会人学生や留学生も含まれている。

学位授与に関するディプロマポリシーは、①人間性・社会性・国際性（社会の一員として義務と権利を適正に行行使し社会発展に積極的に関与する）、②主体的に学ぶ力（学修計画を立て主体的に学びを実践）、③コミュニケーション能力（相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己表現する）、④課題発見力・解決力（課題を発見し情報や知識を複眼的、論理的に分析し課題を解決できる）、⑤知識・技能（人類の文化、社会、自然、地域及び先行する学問分野の知識を理解し、身に付けた技能（実践力）の活用）などと定めている。

本学部のカリキュラムの特徴として、文理融合の学問を横断的に修得し長期インターンシップ、実践教育、実習を通じて地域を理解する。他にも短期海外研修に加えビジネス英語を学ぶ環境を整えている。2年後期から企業マネジメントコース、地域産業創出コース、地域創造コースの3コースに分けることで、専門性を高める教育環境を整備している。

3. 2020年度卒業生アンケート調査

3.1 アンケート調査の概要

アンケートの調査票はA4用紙2枚分（両面1枚）で作成した。調査項目は、①性別、②所属コース、③大学生生活の満足度、④大学生生活で力を入れたこと、⑤大学生生活で苦労したこと、⑥本学部で身につけた素養、⑦本学部で能力や知識を身につけた程度、⑧本学部での実践や実習活動の満足度、⑨本学部のカリキュラムや施設の満足度、⑩満足度の理由（自由記述）、⑪進路

決定に向け役立った経験やアドバイス、⑫卒業後の進路、⑬自由記述の13項目を設定した。2期生の卒業生96人を対象としたアンケート調査は、2021年3月23日の宮崎大学卒業式にて実施した。調査方法は、卒業生に調査票を配布し直接記入後に回収している。回答者は87人で回収率は90.6%となっている。

3.2 アンケート調査の結果

表1は回答者の性別を示した。87人の回答者のうち男性43人(49.4%)、女性44人(50.6%)であった。

次に表2は、コース別回答者数と性別を示した。学生の所属人数では、企業マネジメントコースが33人(38.4%)、地域産業創出コース23人(26.7%)、地域創造コース30人(34.9%)であった。男女比では、男性が企業マネジメン

表1 回答者の性別

	人	%
合計	87	100.0
男性	43	49.4
女性	44	50.6

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

表2 コース別回答者の性別

	合計	企業マネ	地域産業	地域創造
	%	ジメント	創出	
合計	86	33	23	30
%	100.0	38.4	26.7	34.9
男性	42	13	14	15
	100.0	31.0	33.3	35.7
女性	44	20	9	15
	100.0	45.5	20.5	34.1

※合計の単位は人

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

※正式名称からコースを省略している

トコースに13人(31.0%)、地域産業創出コースに14人(33.3%)、地域創造コースに15人(35.7%)が所属していた。一方で、女性は企業マネジメントコースに20人(45.5%)、地域産業創出コースに9人(20.5%)、地域創造コースに15人(34.1%)が所属していた。なお、男性の偏りは少ないが、女性が企業マネジメントコースに半数弱所属していた。

表3は、コース別の大学生生活の満足度を示した。全体として「満足」と「概ね満足」に回答した割合は96.6%となり、非常に満足度は高かった。

コース別では、企業マネジメントコースと地域創造コースは「満足」に6割以上が回答していた。全体を通じて不満の回答は1.1%であった。

表4は、コース別の大学生生活で力を入れたことを示した。まず全体では、「学業(研究等)」43.7%、「アルバイト等」14.9%、「部(サークル)活動」13.8%の順で多く回答されていた。最も多い回答は「学業(研究等)」であったことは、教育機関である大学の役割を果たすことができたと考えられる。コース別では、企業マネ

表3 大学生生活の満足度(コース別)

単位	全体		企業マネジメント コース		地域産業創出 コース		地域創造コース	
	人	%	人	%	人	%	人	%
合計	87	100.0	33	100.0	23	100.0	30	100.0
満足	54	62.1	21	63.6	12	52.2	20	66.7
概ね満足	30	34.5	11	33.3	10	43.5	9	30.0
どちらでもない	2	2.3	1	3.0	0	0.0	1	3.3
やや不満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不満	1	1.1	0	0.0	1	4.3	0	0.0

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

表4 大学生生活で力を入れたこと(コース別)

単位	全体		企業マネジメント コース		地域産業創出 コース		地域創造コース	
	人	%	人	%	人	%	人	%
合計	87	100.0	33	100.0	23	100.0	30	100.0
学業(研究等)	38	43.7	19	57.6	8	34.8	11	36.7
部(サークル)活動	12	13.8	4	12.1	4	17.4	3	10.0
アルバイト等	13	14.9	3	9.1	4	17.4	6	20.0
社会貢献活動	6	6.9	1	3.0	3	13.0	2	6.7
就職活動	7	8.0	2	6.1	1	4.3	4	13.3
趣味	9	10.3	3	9.1	3	13.0	3	10.0
その他	2	2.3	1	3.0	0	0.0	1	3.3

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

ジメントコースは「学業（研究等）」57.6%、「部（サークル）活動」12.1%の順に多く回答されていた。地域産業創出コースは「学業（研究等）」34.8%、「部（サークル）活動」と「アルバイト等」17.4%の順に多く回答されていた。地域創造コースでは「学業（研究等）」36.7%、「アルバイト等」20.0%の順に多く回答されていた。

表5はコース別の大学生活で苦労したことを示した。まず、全体を見ていくと「学業（研究・課題等）」40.7%、「就職活動」36.0%、「生活費の捻出」10.5%の順に多く回答されていた。コース別では、企業マネジメントコースは「学業（研究・課題等）」と「就職活動」33.3%、「生活費の捻出」15.2%の順に多く回答されていた。

表5 大学生活で苦労したこと（コース別）

単位	全体		企業マネジメントコース		地域産業創出コース		地域創造コース	
	人	%	人	%	人	%	人	%
合計	86	100.0	33	100.0	23	100.0	29	100.0
学業（研究・課題等）	35	40.7	11	33.3	9	39.1	15	51.7
生活費の捻出	9	10.5	5	15.2	1	4.3	3	10.3
友人や教員との人間関係	5	5.8	4	12.1	1	4.3	0	0.0
部（サークル）活動	2	2.3	0	0.0	0	0.0	2	6.9
アルバイト等	2	2.3	1	3.0	1	4.3	0	0.0
就職活動	31	36.0	11	33.3	11	47.8	8	27.6
その他	2	2.3	1	3.0	0	0.0	1	3.4

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

表6 本学部で身に付けた素養

	単位	合計	あまり身に				
			充分身についた	ある程度身についた	どちらともいえない	つかなくかつ	全く身につかなかった
①主体的に学ぶ力	人	87	28	46	11	2	0
	%	100.0	32.2	52.9	12.6	2.3	0.0
②専門知識・技能	人	87	15	47	19	5	1
	%	100.0	17.2	54.0	21.8	5.7	1.1
③実践力	人	87	33	40	11	2	1
	%	100.0	37.9	46.0	12.6	2.3	1.1
④国際性	人	87	13	19	32	19	4
	%	100.0	14.9	21.8	36.8	21.8	4.6

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

地域産業創出コースでは「就職活動」47.8%、「学業（研究・課題等）」39.1%の順に多く回答されていた。地域創造コースは「学業（研究・課題等）」51.7%、「就職活動」27.6%の順に多く回答されていた。

表6にて本学部で身につけた素養を示した。
①主体的に学ぶ力については、回答の多い順に「ある程度身についた」52.9%、「充分身についた」32.2%となり、8割以上が身についたと回答している。②専門知識・技能は、回答の多い順に「ある程度身についた」54.0%、「どちらともいえない」21.8%という回答結果であった。ただ、「充分身についた」には17.2%が回答しており7割以上は身についたと回答していた。

③実践力について回答の多い順に「ある程度身についた」46.0%、「充分身についた」37.9%で、8割以上が身についたと回答していた。④国際性については、回答の多い順に「どちらともいえない」36.8%、「ある程度身についた」と「あまり身につかなかった」21.8%であった。

表7では、本学部で能力や知識を身につけた程度を示している。全体を通して「充分身についた」、「ある程度身についた」に多く回答されていた。詳細に見ていくと、「充分身についた」の回答の多い順に⑥コミュニケーション能力53.6%、⑤地域の課題を発見する力40.5%、④複眼的な視点で地域を見る力32.1%であった。次に、「ある程度身についた」の回答の多い順に

表7 本学部で能力や知識を身につけた程度

	合計	単位	充分身についた	ある程度身についた	どちらともいえない	あまり身につかなかった	全く身につかなかった
①マネジメントの専門知識	100.0	%	21.8	51.7	20.7	4.6	1.1
	87	人	19	45	18	4	1
②社会・人文科学の基礎知識	100.0	%	21.8	55.2	17.2	4.6	1.1
	87	人	19	48	15	4	1
③農学・工学の基礎知識	100.0	%	6.0	22.6	31.0	26.2	14.3
	84	人	5	19	26	22	12
④複眼的視点で地域を見る力	100.0	%	32.1	58.3	8.3	0.0	1.2
	84	人	27	49	7	0	1
⑤地域の課題を発見する力	100.0	%	40.5	44.0	11.9	3.6	0.0
	84	人	34	37	10	3	0
⑥コミュニケーション能力	100.0	%	53.6	41.7	3.6	1.2	0.0
	84	人	45	35	3	1	0
⑦問題解決能力や理解力	100.0	%	23.8	59.5	13.1	3.6	0.0
	84	人	20	50	11	3	0
⑧英語等の語学力	100.0	%	3.6	38.1	31.0	22.6	4.8
	84	人	3	32	26	19	4

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

⑦問題解決能力や理解力 59.5%、④複眼的視野で地域を見る力 58.3%、②社会・人文科学の基礎知識 55.2%であった。

③農学・工学の基礎知識については、「あまり身につかなかった」26.2%、「全く身につかなかった」14.3%であった。⑧英語等の語学力では「あまり身につかなかった」22.6%であった。この2つの項目はマイナスの回答が多く見られた。

ここからは、本学部で能力や知識を身につけた程度についてコース別でクロス集計を行い比較した。まず、表8で示した企業マネジメントコースでは、全体的に「充分身についた」、「ある程度身についた」に多く回答されていた。

中でも「充分身についた」の回答の多い順では、⑥コミュニケーション能力 64.5%、⑤地域の課題を発見する力 45.2%、①マネジメントの専門知識 33.3%であった。一方で、「全く身につかなかった」では③農学・工学の基礎知識 22.6%となった。

次に、表9で示した地域産業創出コースを見ていく。全体的に「充分身についた」、「ある程度身についた」に多く回答されていた。中でも「充分身についた」の回答の多い順では、⑥コミュニケーション能力 50.0%、④複眼的視野で地域を見る力と⑤地域の課題を発見する力 36.4%であった。一方で、「全く身につかなかった」では③農学・工学の基礎知識と⑧英語等の

表8 本学部で能力や知識を身につけた程度（企業マネジメントコース）

			充分身についた	ある程度身についた	どちらとも いえない	あまり身につかなかった	全く身につかなかった
	合計	単位					
①マネジメントの専門知識	100.0	%	33.3	57.6	6.1	0.0	3.0
	33	人	11	19	2	0	1
②社会・人文科学の基礎知識	100.0	%	30.3	51.5	15.2	3.0	0.0
	33	人	0	4	10	10	7
③農学・工学の基礎知識	100.0	%	0.0	12.9	32.3	32.3	22.6
	33	人	0	4	10	10	7
④複眼的視点で地域を見る力	100.0	%	32.3	58.1	9.7	0.0	0.0
	33	人	10	18	3	0	0
⑤地域の課題を発見する力	100.0	%	45.2	41.9	9.7	3.2	0.0
	33	人	14	13	3	1	0
⑥コミュニケーション能力	100.0	%	64.5	32.3	3.2	0.0	0.0
	33	人	20	10	1	0	0
⑦問題解決能力や理解力	100.0	%	32.3	54.8	12.9	0.0	0.0
	33	人	10	17	4	0	0
⑧英語等の語学力	100.0	%	6.5	32.3	22.6	32.3	6.5
	33	人	2	10	7	10	2

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

表9 本学部で能力や知識を身につけた程度（地域産業創出コース）

	合計	単位	充分身についた	ある程度身についた	どちらともいえない	あまり身につかなかった	全く身につかなかった
①マネジメントの専門知識	100.0	%	17.4	39.1	34.8	8.7	0.0
	23	人	4	9	8	2	0
②社会・人文科学の基礎知識	100.0	%	13.0	52.2	21.7	8.7	4.3
	23	人	3	9	6	2	2
③農学・工学の基礎知識	100.0	%	13.6	40.9	27.3	9.1	9.1
	23	人	3	9	6	2	2
④複眼的視点で地域を見る力	100.0	%	36.4	50.0	9.1	0.0	4.5
	23	人	8	11	2	0	1
⑤地域の課題を発見する力	100.0	%	36.4	45.5	13.6	4.5	0.0
	23	人	8	10	3	1	0
⑥コミュニケーション能力	100.0	%	50.0	40.9	4.5	4.5	0.0
	23	人	11	9	1	1	0
⑦問題解決能力や理解力	100.0	%	22.7	54.5	13.6	9.1	0.0
	23	人	5	12	3	2	0
⑧英語等の語学力	100.0	%	4.5	40.9	31.8	13.6	9.1
	23	人	1	9	7	3	2

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

語学力9.1%であった。最後に、表10で示した地域創造コースを見ていく。全体的に「充分身についた」、「ある程度身についた」に多く回答されていた。中でも「充分身についた」の回答の多い順では、⑥コミュニケーション能力43.3%、⑤地域の課題を発見する力40.0%、④複眼的視野で地域を見る力30.0%であった。一方で、「全く身につかなかった」では③農学・工学の基礎知識10.0%であった。3つのコースを比較してみると、「充分身についた」では、全体の傾向と地域産業コースと地域創造コースは同じであった。唯一異なる企業マネジメントコースにおいても、3番目のみ異なる程度であった。企業マネジメントコースの専門性である①マネジメントの専門知識が上位に入ったこ

とは特筆すべき点であるが、全体的な傾向はコースによって違いはあまりなかった。「充分身についた」の回答傾向は、企業マネジメントコースが2つのコースや全体と比較しても高かった。企業マネジメントコースに所属した卒業生において、能力や知識を身につけた実感が高いことが明らかになった。

「全く身につかなかった」については、3つのコースと全体で同じ傾向であった。地域産業創出コースだけが、同ポイントで③農学・工学の基礎知識と⑧英語等の語学力の2つの回答が多かった。しかし、全体では2番目に多く回答されていたのが、⑧英語等の語学力であることから同じような傾向であったと考えられる。

表 10 本学部で能力や知識を身につけた程度（地域創造コース）

	合計	単位	充分身についた	ある程度身についた	どちらともいえない	あまり身につかなかった	全く身につかなかった
①マネジメントの専門知識	100.0	%	13.3	56.7	23.3	6.7	0.0
	30	人	4	17	7	2	0
②社会・人文科学の基礎知識	100.0	%	20.0	63.3	16.7	0.0	0.0
	30	人	6	9	5	0	0
③農学・工学の基礎知識	100.0	%	6.7	16.3	33.3	33.3	10.0
	30	人	2	5	10	10	3
④複眼的視点で地域を見る力	100.0	%	30.0	66.7	3.3	0.0	0.0
	30	人	9	20	1	0	0
⑤地域の課題を発見する力	100.0	%	40.0	46.7	13.3	0.0	0.0
	30	人	12	14	4	0	0
⑥コミュニケーション能力	100.0	%	43.3	53.3	3.3	0.0	0.0
	30	人	13	16	1	0	0
⑦問題解決能力や理解力	100.0	%	16.7	66.7	13.3	3.3	0.0
	30	人	5	20	4	1	0
⑧英語等の語学力	100.0	%	0.0	43.3	40.0	16.7	0.0
	30	人	0	13	12	5	0

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

よって、ポジティブ回答とネガティブ回答の傾向は、コースが異なっても同じであった。コースによって、程度の差は見られるが卒業生の身につかなかった能力や知識は学部全体の単課題であることが明らかになったため、喫緊に底上げの改善が求められる。

表 11 は、本学部での実践・実習活動の満足度を示した。本学部は、地域の現場での実践教育をカリキュラムの特色として位置付け、実践教育の学修機会を数多く設けている。回答結果を見ていくと、全ての項目で「とても満足している」「ある程度満足している」を合わせて8割以上の回答があった。7項目のうち4項目で9割以上の回答が見られており、全体的な満足度は高かった。項目別に多かった回答を見ていく

と、①青島での合宿では「ある程度満足している」52.4%、②地域理解実習は「ある程度満足している」47.6%、③地域探索実習Ⅰについては「ある程度満足している」47.6%、④地域探索実習Ⅱは「ある程度満足している」49.4%、⑤インターンシップ・海外研修では「とても満足している」51.8%、⑥ゼミでの「学び」や実践活動については「とても満足している」57.1%、⑦卒業研究の取り組みでは「とても満足している」51.2%という回答結果であった。

着目すべき点は、卒業生の満足度が高い⑤インターンシップ・海外研修と⑥ゼミでの「学び」や実践活動と⑦卒業研究の取り組みである。この3項目は、学生生活の中で長期的に取り組む必要があること、地域や社会との関わりが深い

表 11 本学部での実践・実習活動の満足度

	単位	合計	とても満足	ある程度満	どちらとも	あまり満足	全く満足し
			している	足している	いけない	していない	ていない
①青島での合宿	%	100	40.5	52.4	7.1	0.0	0.0
	人	84	34	44	6	0	0
②「地域理解実習」	%	100	42.9	47.6	7.1	1.2	1.2
	人	84	36	40	6	1	1
③「地域探索実習 I」	%	100	42.9	47.6	7.1	1.2	1.2
	人	84	36	40	6	1	1
④「地域探索実習 II」	%	100	42.0	49.4	6.2	1.2	1.2
	人	81	34	40	5	1	1
⑤インターンシッ プ・海外研修	%	100	51.8	32.5	8.4	6.0	1.2
	人	83	43	27	7	5	1
⑥ゼミでの「学び」 や実践活動	%	100	57.1	29.8	9.5	3.6	0.0
	人	84	48	25	8	3	0
⑦卒業研究への取り 組み	%	100	51.2	35.7	8.3	4.8	0.0
	人	84	43	30	7	4	0

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

表 12 本学部のカリキュラムや施設の満足度

単位	全体		企業マネジメント コース		地域産業創出 コース		地域創造コース	
	人	%	人	%	人	%	人	%
合計	84	100.0	31	100.0	22	100.0	30	100.0
満足	29	34.5	14	45.2	7	31.8	8	26.7
概ね満足	44	52.4	13	41.9	11	50.0	19	63.3
どちらでもない	8	9.5	2	6.5	4	18.2	2	6.7
やや不満	3	3.6	2	6.5	0	0.0	1	3.3
不満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

こと、容易に遂行できないことなどから、とても大きな充実感や達成感が得られたのであろう。そのことが高い満足度につながったと考え

られる。一方で、全体として「あまり満足していない」や「全く満足していない」に少ないが回答が見られた。学部として早期に不満や問題

を抱える学生を見つけ、ケアや指導などが必要である。

表 12 は、本学部のカリキュラムや施設の満足度をコース別に示した。全体を見ていくと、「満足」と「概ね満足」が 8 割以上回答されており、卒業生の満足度は高いと考えられる。一方で、「どちらでもない」9.5%、「やや不満」3.6%など満足度が低い回答も見られた。

次はコース別に見ていく。企業マネジメントコースは、「満足」「概ね満足」を合わせると 87.1%で、3 つのコースの中で最も「満足」の回答が多かった。地域産業創出コースにおいては、「満足」「概ね満足」を合わせると 81.8%であった。地域創造コースでは、「満足」「概ね満足」を合わせると 80.0%であった。地域産業創出コースと地域創造コースでは、「概ね満足」に最も多く回答されていた。

以上からカリキュラムや施設の満足度は、企業マネジメントコースが最も高かった。今後は、地域産業創出コースと地域創造コースの満足度を高めるために、学部全体の底上げが必要である。

表 13 は、本学部のカリキュラムや施設の満足度について自由記述をしてもらい、主な回答を要約し示した。全体を通じて、ポジティブで満足度の高い記述が多かった。俯瞰的に見ていくと、全体として「楽しい」「充実」などの学生生活が実りあったことが明らかになった。他にも「学べる環境」「地域での実習」「他で学べない」など、本学部のアドミッションポリシーやディプロマポリシーを踏まえ、本学部の教育環境の特色が反映された意見が多く散見しており、教育効果や施設への満足度が高かった。

一方で、本学部の特色である実務家教員の配置、多様な専門性を持つ教員陣が文理融合による教育活動に従事してきた。教員陣は、多様であることから専門性や価値観が異なり、学部統一の基準を設けることが難しかった。そのため、

表 13 本学部のカリキュラムや施設の満足度の理由

NO	主な自由記述の要約
1	海外短期研修など海外での機会があり人生での貴重な体験になった
2	この学部でしか学べないことを多く学び人生の貴重な体験になった
3	友人たちと学ぶ意欲が持てた
4	充実した学生が送れた（多数回答あり）
5	楽しい学生生活であった（多数回答あり）
6	就活で忙しい 3 年後期に講義が多いので分散すると良かった
7	様々な分野を学べた（多数回答あり）
8	他の大学や学部で学べないことを多く学んだ
9	フィールドワークが多いので学んだことを実感できた
10	充実した実習内容
11	他学部では学べない地域に根差した学び
12	教員や職員などの距離が近く親身であった

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

ゼミ（研究室）単位での基準もあり卒業研究に対する、成績評価基準や教育指導の質と量が異なることに不満を持つ卒業生の存在があった。その他にも複眼的な視野や多角的な学びを修得できた一方で、高度な専門性が修得できなかったことを不満に感じる卒業生も存在した。

表 14 は、進路決定に向け役立ったアドバイスを複数回答で尋ね示した。全体を見ていくと回答の多い順に、「ゼミ活動」16.2%、「国内インターンシップ」14.0%、「実習活動」11.2%であった。この 3 つの項目が多く回答された要因として、長期的な取り組みを通じ地域や社会との関わりを深め、卒業生自ら進路を切り開く自信と知識が得られた成果だと考える。「ゼミ活動」は、2 年後期からゼミ（研究室）に配属し、

表 14 進路決定に向け役立ったアドバイス

単位	全体		企業マネジメント コース		地域産業創出 コース		地域創造コース	
	人	%	人	%	人	%	人	%
合計	278	100.0	110	100.0	68	100.0	98	100.0
共通科目の授業	17	6.1	6	5.5	3	4.4	8	8.2
専門科目の授業	18	6.5	8	7.3	1	1.5	9	9.2
実習活動	31	11.2	8	7.3	9	13.2	14	14.3
国内インターンシップ	39	14.0	13	11.8	9	13.2	17	17.3
外国語科目	2	0.7	1	0.9	0	0.0	1	1.0
留学などの国際交流	7	2.5	6	5.5	0	0.0	1	1.0
ゼミ活動	45	16.2	15	13.6	14	20.6	16	16.3
地域学部による就職ガイ ダンス・指導	10	3.6	5	4.5	3	4.4	2	2.0
部（サークル）活動	15	5.4	5	4.5	4	5.9	5	5.1
友人・先輩との交流	30	10.8	12	10.9	7	10.3	10	10.2
地域・社会貢献活動	22	7.9	13	11.8	4	5.9	5	5.1
地域学部の合同企業座談会	16	5.8	9	8.2	4	5.9	3	3.1
指導教員等からのアドバイ ス・指導	22	7.9	6	5.5	10	14.7	6	6.1
その他	4	1.4	3	2.7	0	0.0	1	1.0

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

実践的なプロジェクト活動や卒業研究論文の執筆に向けた多様な学びを進めていく。卒業生は指導教員と信頼関係を構築し、専門性に特化した知見の修得以外に、指導教員のアドバイスやゼミ学生との議論などを踏まえて、卒業後の進路を考え悩みながら決定したケースが多いと考えられる。

「国内インターンシップ」は、3年次進級前の春休みや3年次夏期休暇などの長期休暇中に、1ヶ月程度インターンシップに取り組むプログラムである。立地や業種によっては宿泊する必要があり、慣れない生活を送りながら取り組むことで人間的な成長と自信が得られるこ

と、地域の社会人であるインターンシップ受け入れ先の社員や職員などと一緒に働き話し合う中で、多くの卒業生は将来設計のヒントを得たようだ。

「実習活動」については、本学部では1年次に「地域理解実習」と「地域探索実習Ⅰ」、2年次に「地域探索実習Ⅱ」を配置し、1年半で宮崎県内をフィールドとして地域のことを学んでいる。本学部での実習は、フィールドが抱える地域課題について事前学習と現場での聞き取り調査を実施し、フィールドに向けたプレゼンテーションとレポートを取り纏めることで、卒業生は掘り下げて地域課題を捉え解決方法

を模索していた。地方公務員を志した卒業生は多く、当時実習で地域を学ぶ中で将来の進路希望が定まってきたと考えられる。

しかしながら、「地域学部による就職ガイダンス・指導」3.6%、「地域学部の合同企業座談会」5.8%など本学部独自による就職活動支援に特化した取り組みは、あまり回答がされていなかった。この結果を踏まえ、効果的な就職活動支援を検討する必要があるだろう。

ここからコース別に見ていく。企業マネジメントコースでは、回答の多い順に「ゼミ活動」13.6%、「国内インターンシップ」と「地域・社会貢献」11.8%であった。地域産業創出コースについては、回答の多い順に「ゼミ活動」20.6%、「指導教員等からのアドバイス」14.7%、「実習活動」と「国内インターンシップ」13.2%であった。地域創造コースは、回答の多い順に「国内インターンシップ」17.3%、「ゼミ活動」16.3%、「実習活動」14.3%であった。

3つのコースを比較すると、全体で上位の項目は、各コースでも順位は異なるが概ね上位に来ている。中でも着目すべき点は、企業マネジ

メントコースでは2番目に「地域・社会貢献」が多く回答されていた。ビジネスコンテストなどの参加卒業生が多く所属しているコースなので、地域や社会との関わりが進路選択に影響を与えていたようだ。他には、地域産業創出コースは、「指導教員等からのアドバイス」が2番目に多く回答されていた。自然科学系の教員が多く所属しており、実験などで長時間教員と卒業生の関わりがあったことで、多く回答されたと考えられる。

以上から、所属するコースによって卒業生の進路決定に大きな影響は見られないが、コースごとの活動には、少なからず影響が見られたことが明らかになった。

表15は、2020年度卒業生の卒業後の進路を示した。全体を見ていくと、回答の多い順に「一般企業」68.7%、「公務員」21.7%であった。一方で、「その他」8.4%、「未定」1.2%などの回答があり、時間を掛け模索する卒業生の存在があった。これらの卒業生に向けた進路支援策は必要であろう。また、「大学院進学」、「留学」、「起業・自営業」の回答は無かった。

表15 卒業後の進路

単位	全体		企業マネジメント コース		地域産業創出 コース		地域創造コース	
	人	%	人	%	人	%	人	%
合計	83	100.0	31	100.0	21	100.0	30	100.0
一般企業	57	68.7	23	74.2	16	76.2	17	56.7
公務員	18	21.7	5	16.1	3	14.3	10	33.3
大学院進学	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
留学	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
起業・自営業	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
未定	1	1.2	0	0.0	1	4.8	0	0.0
その他	7	8.4	3	9.7	1	4.8	3	10.0

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

コース別に見ていく。3つのコースとも回答の多い順に「一般企業」、「公務員」で全体と同じ傾向であった。ただ、地域創造コースでは1/3が「公務員」になっており、他の2つのコースと比較し多かったが、その分「一般企業」に就職する卒業生は少ない傾向になった。

表16では、卒業生が大学生活の中で心に残っていることについて、自由記述をしてもらい、内容要約を示した。内容を見ていくと、長期インターンシップ、ゼミ活動、卒業研究論文の執筆など、長期的に取り組む成長や成果の実感が多く記述されていた。他に、友人や教員の存在などが記述されており、人との出会いの場としても役立ったようだ。「地域に」特化した本学部であったため、「地域」に関する学びを深められた点や実習の有益性などを卒業生が体感できたことは実り多かったと考えられる。

一方で、授業が大変であった、教員の他大学転出による転ゼミの負担、所属ゼミ教員の教育方針が合わないなど、卒業生からの課題の指摘を多数頂いた。授業の難易度や課題の質と量などは、教育の質に関わる問題である。総合的な判断が不可欠であろう。また、教員の転出を止めることは難しいため、後任教員の配置など可能な限り学生の負担が無いような学部運営が求められている。ゼミ教員の指導方針など合わないことも多々あるだろう。所属前の面談やオープンゼミなどを実施しているので、積極的に活用しミスマッチを少しでも減らすことが必要であろう。ゼミ配置学生人数の厳格化や転ゼミのルール再整備など再考の余地はあるだろう。しかし、学生側の希望を全て受け入れると学部の教育環境や水準を保つのが難しくなる。バランス感覚を持ち再整備していく本学部の課題が見えてきた。

4. 地域資源創成学部の教育活動の成果と課題

本稿において2020年度卒業生を対象とした

表16 自由記述（大学生活の中で心に残っていること）

NO	主な自由記述の要約
1	様々な目線で「地域」を捉えることができた
2	ゼミ室で友人と学習した思い出がある
3	ゼミ活動で様々なチャレンジができた
4	大事な友人ができた
5	ゼミ活動での研究活動が心に残っている
6	ゼミ活動が楽しく、他のゼミ活動も知ることができ良かった
7	コミュニケーション能力が身に付いた
8	授業時間外の活動が多く大変であった
9	実習は有意義だった
10	ゼミの仲間が、大学で安心できる居場所になった
11	実習の機会をもっと増やしてほしい
12	興味のある分野を深められた
13	良い先生や仲間に出会った
14	教員異動のゼミ変更の負担が多い
15	友人と実習や外部の人と関わる事が多く勉強になった
16	インターンシップが印象に残っている
17	卒業論文執筆時の教員指導
18	論文執筆方法を学んでこと
19	長期インターンシップが就職に役立った
20	ゼミ活動で色々な所に行けたこと
21	ゼミ所属時には人数制限を設けてほしい
22	ゼミ教員が放任主義なので自ら進んで学んだ

※出典：筆者がアンケート調査結果から作成

アンケート結果の分析を行った。卒業生の大学生活における高い満足度や大学生活で力を入れたことでは学業（研究）に最も多く回答された結果から、本学部の教育活動は高く評価されていた。その反面、大学生活で苦労したことは学業（研究・課題等）に最も多く回答がされており、きちんと学業に向き合う学生が大多数

で、大変であったが苦勞した分充実感があったようだ。教育水準が保たれていたことの裏付けにもなるだろう。

本学部におけるアドミッションポリシーとディプロマポリシーに関わり深い表7の設問では、「充分身についた」と「ある程度身についた」に多く回答されており、卒業生が感じた本学部で身につけた能力や知識は一定の成果があり、両ポリシーを満たすことができただろう。本学部の教育の柱であり特色の一つである地域実習や長期インターンシップについては、満足度が高く教育効果や進路選択にも一役買っていた。引き続き充実したカリキュラムを提供できるように、学部教員全員で取り組む必要があるだろう。

しかし、課題として見えてきたのは農学・工学の基礎知識や英語等の語学力の2項目は身についた実感は乏しかったようだ。農学部や工学部の教員に協力を得ながら開講している関連科目は、3年次や4年次に集中している。就職活動の長期化や卒業研究論文執筆時期と重なるなど関連科目の受講が難しいケースが多々あると考えられる。そのため、2022年度から、農学や工学の基礎的な教育を担う、地域資源論を1年次必修として開講することにした。

一方で英語教育に関しては、1年生から3年生まで英語科目の設置とTOEIC受験を必須化しており英語漬けの教育環境を提供しているが、語学の修得には時間と労力を費やす必要がある。早期の成果には結びついていないが、3年間の語学教育の成果は着実にあると考えられる。

能力や知識を身につけた程度やカリキュラムの満足度など全卒業生と3コースのクロス集計で比較したが、大きな差異は見られなかった。コースごとの教育内容やゼミ教員の専門性など異なる点もあるため、卒業生全員が同じ教育環境下ではなかったが、コースや所属ゼミの特

色を十分に発揮し、卒業生の身につけた実感と満足感が得られており成長につながっている。特にゼミごとに取り組むプロジェクトや卒業研究論文の執筆を通じて成長を実感し、満足度と充実感を満喫できた学生生活になっていた。高い評価につながったゼミでの教育活動は、非常に重要であることが明らかになった。今後も教育レベルを維持しながら継続しなければならない。

5. おわりに

2020年3月に2期生を社会に輩出することができた。教育の質向上を目指し、様々な試行錯誤をしてきた教員陣と地域のリーダーを育成する本学部の趣旨を理解し、インターンシップや実習の受け入れ協力をしてくれた地域の関係者らが一体となって取り組み教育を展開することができた。卒業生の高い満足度や充実した学生生活を送れたのは、地域関係者のお陰であろう。

しかし、良い点だけではなく課題点を明らかにすることができた。課題点の改善に取り組み、宮崎県内の発展に寄与する人材育成に少しでも貢献できる地域資源創成学部を創り上げていかなければならないだろう。

——— 参考文献 ———

小山大介・熊野稔・井藤哉・戸敷浩介・福島三穂子・松岡崇暢(2021年)「2019年度地域資源創成学部卒業生アンケート調査に関する一考察」『宮崎大学地域資源創成学部紀要』第4号,pp.47-58.

2022.01.21. 受理

③農学・工学の基礎知識	1	2	3	4	5
④複眼的視点で地域を見る力	1	2	3	4	5
⑤地域の課題を発見する力	1	2	3	4	5
⑥コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
⑦問題解決能力や理解力	1	2	3	4	5
⑧英語等の語学力	1	2	3	4	5

【6】 地域資源創成学部での「学び」や実践・実習活動の満足度をお教えてください。

(5段階で評価して数字に○をつけてください)

とても ある程度 どちらとも あまり満足 全く満足
満足している 満足している いえない していない していない

①青島での合宿	1	2	3	4	5
②「地域理解実習」での実習	1	2	3	4	5
③「地域探索実習Ⅰ」での実習	1	2	3	4	5
④「地域探索実習Ⅱ」での実習	1	2	3	4	5
⑤インターンシップ・海外研修	1	2	3	4	5
⑥ゼミでの「学び」や実践活動	1	2	3	4	5
⑦卒業研究への取り組み	1	2	3	4	5

【7】 あなたは地域資源創成学部のカリキュラムや施設にどの程度満足していますか。

(1) 満足 (2) 概ね満足 (3) どちらでもない (4) やや不満 (5) 不満

上記のように回答した理由をお聞かせください。

【8】 卒業後の進路を選ぶ上で、大学でのどのような授業や経験、アドバイスが役に立ちましたか。

該当するものに○をつけてください(複数回答可)。

- ①共通科目の授業 ②専門科目の授業 ③実習活動 ④国内インターンシップ
⑤外国語科目 ⑥留学などの国際交流 ⑦ゼミ活動 ⑧地域学部による就職ガイダンス・指導
⑨部(サークル)活動 ⑩友人・先輩との交流 ⑪地域・社会貢献活動
⑫地域学部の合同企業座談会 ⑬指導教員等からのアドバイス・指導 ⑭その他()

【9】 卒業後の進路についてお教えてください。

(1) 一般企業 (2) 公務員 (3) 大学院進学 (4) 留学 (5) 起業・自営業
(6) 未定 (7) その他()

【10】 大学生活のなかで心に残っていること、講義やゼミ活動の成果や課題をお聞かせください。また、大学施設や設備、カリキュラム等に改善の必要性があれば、具体的に記述してください。

ご協力ありがとうございました。